

文芸

俳句

道の駅 蛙の覗む塚の中

池田 逸子

葛の上に葛の茂れる言舎跡
伊藤 敬子

金魚すくい一夜限りの晴れ舞台
今関満喜子

水溜まりいくつか浅し梅雨晴間
魚地 照子

星今宵逢ひたき人のみな彼岸
江森 悦子

荒梅雨や祖母の遺せし傘開く
川島 孝夫

渡る雲青田に影の写し行く
川島 通則

朝の駅足とどめて花菖蒲
向後 寛

青田原東金線の狐を描き
越川せつ子

梅雨半ば嘘はつかぬと湿度計
小松 藤男

夏木立出でて遠けし白帆かな
佐瀬 輝夫

痛癢が端居している父の顔
宍倉 道子

村中の水つなかりて青田かな
鈴木とし子

ハンモック涙で濡らす海兵よ

玉虫 栗扇

至綱と担ぐ子の来る青田かな
土屋 義昭

ハンモック安らぎの中深ねむり
戸村 静華

ハンモック青桐大葉の影に置き
長谷川正子

みどり児の子守唄聞くハンモック
山口 一秋

見の視線泳ぐ金魚ととらえつつ
山口 とし

馬鹿者!!と夫は声あげ抗議せり
独りテレビのニュースを見つつ
佐瀬 初音

故郷の田圃も畑も公園と
なりて昔の面影はなし
吉岡 信子

おだしくも慈愛溢るるみ仏の
み前に佇らて仰ぎぬませり
鈴木まさ子

人の名を互に思ひ出せぬまま
高校時代を友と語るも
八角 三枝

空と海境なまきまで鈍色の
九十九里浜とサーファーは行く
西山満里子

涼しげなガラスの花瓶に紫陽花と
車に活け置く言し女は
押尾 輝子

梅雨季と朱の色明るく萱草

逝きたる友の形見となりぬ
青木 秀子

むつまじく語り合ふがにアザレアは
吾庭に花を多に咲かすも
池田 春江

ルーブル展見むと雨の降る中
五十分近く並び待ち待らぬつ
田崎 尚実

しとしと降りつぐ雨に庭草は
抜きて四、五日はやも伸び来つ
芹川 初子

植色し田のみどり日毎に増す中
夜は蛙の歌声繁し
平山 芳子

亡き母の近所付合ひの賜か
至蜀黍が玄関に在り
島田ますみ

征きまして帰らぬ兵士の写し絵と
明光院は欄間に掲ぐ
齊藤つね子

謎多き未知なる宇宙に留まりて
人智の限り探る飛行士
伊藤 定男

すこやかな七十路の人卒然と
逝きたりと聞く在る日々尊し
越川 福子

青田風ゴム手袋も地下足袋も無き
世の裏に生きし父母
越川 義則

こうほう博物館

17

墨書きされた土器

銚子連絡道路の出口のところ
に、芝崎中島遺跡があります。
その中島遺跡の西半分が銚子連
絡道路を造るにあたって、発掘
調査が行われました。この調査
の結果、平安時代の整然と並ん
だ建物の柱穴群や畑跡、中世の
居館跡も検出されました。そし
てそれらの遺構からは、当時の
陶磁器が多く出土しました。そ
の平安時代の土器の中に、墨書
きがあるのを多く見つけまし
た。その中には「畔代」とか「
足伐」と書かれた土器の破片が
五点、他にこれらの字が一字あ
るものが数点あり、これらは「あ
じろ」と読むと推定されました。
奈良時代から平安時代の土器
には、文字や記号・顔などを
墨やへら書きしたものが、よく
見られます。文字は持ち主を表
す人名や地名と思われ、また寺
名を書いたものもあり、記号や
顔は呪いのためではないかと言
われています。しかし、何のた
めに土器に文字や記号などが書
かれたか、多くの専門家が研究
していますが、いまだによく分
かっていません。



▲出土した墨書土器

同じ読み方をした地名が、平
安時代に書かれた和名類聚抄に
「上総国武射郡畦代郷」が出て
きます。この地名に当たる所が
町内の栗山であると推定され、
町健康管理センターが建設され
た庚申遺跡の発掘調査では、同
時代の建物跡や畑跡が検出され
ましたが、墨書土器は出土して
いません。すると中島遺跡が「武
射郡畦代郷」かというところ、こ
ちらは「下総国匝瑳郡岩室郷」に
入っていたと思われるのですが、「
岩室」と墨書された土器は出て
いません。いったいどこが「畦
代郷」で「岩室郷」であったか、
あるいは栗山川を隔てて頻りに
交流があったのか、「畦代郷」
が栗山川を越えて広がっていた
のか、中島遺跡出土の墨書土器
は、なぜが深まるばかりです。